

挽く 彫る 編む

山でよし川でよし

旦那は、辛抱した人なんだよお、この人。うん、家思いの人でね。親思いで。この人ぐれえだべよお。二十九の歳まで実家を助(す)けたっつもの。

まあずほんとに、なんでも山は好き。鉄砲はしねかったけど、なあんでも好きなの。魚捕りも好きだし、山の山菜採りは好きだし、なあんでも趣味あった。ああ、魚捕りは好きだあ、好きだ。釣りも、網打(ぶ)ちも。あれ、にわか雨降っちゃ？ ああ、網たがってね、川さ駈(はし)えでくんだった。また捕れんだもんね。

で、てえげえの物、自分で何いでも作(つく)ったの。ご飯炊ぐ釜の台だり、鍋の蓋だり。まあず、ほゆのは好きだった。

うん、山案内もしたよお。山菜採りでもいいし、川さ行くのもいいし。仕事休んでまで案内したんだおん、川でよし山でよし。だから、山さ嫁(い)って、なんもなんねえうち、「働(はだら)いで食べねけねえもの、そんなにしでたら駄目だべっちゃあ」なんつったけども、やっぱり人を助ければ、恵み、巡り会いあつてね、ほんなに苦労と思わねかったね。誰かれ訪ねるの、順繰りに、つぎあいつぎあいつて口伝えでいってね。うん、にぎやかだったね、日曜つうとは、まあず一日。毎週、誰か彼かね。飲む人だったから、何時(いつ)でえもいんだおん、酒は。んだけっどほら、あのなんつうの、酒癖悪い人いっちゃ？ その人と仲間(なかば)るのは嫌(や)んだ人だったの。

んだからあれだっちゃ、亡くなった時なんか、えらーい人だったんださあ。まあず、ほゆう人だったはねや。

(『升沢にくらす』 p.275)

縄のない方 炭スゴの編み方

嫁入前にござ来たこと、全然(じえんじえん)、私はねえの、はしめてなの。嫁入は、トラックだったんだから、おれは。トラックの運転席で、「どこまで行ったら家あんの」どって、泣あいだ。

山さあって苦労は、木い背負いね。やっぱり家にいたとき、木い背負いなんかしねえっちゃ。炭背負いだとか。あと、縄ない、すご編み。縄なうって、ないよう分がんねえから、おれ、うっんど撚りかけて、なってしもからは、拵(ひしょ)げだとき、クリクリーンと八の字になるわけ。スゴ編みも知やあねえから、ほれ、こうカヤ、こっち側さ出だごつたらあ、こう、すぐに折るわけ、おらだちは。ほいづ、こっち方(ほ)の人たち、こゆふに二度折って、角っこ付けんの。ほしでこんど、こっちはこいづが、うんど詰まっては。みんなが、角を付けっからあ、大っきいわけさ。角付けねえでそのまま折るからあ、ちゃっこいわけさ。

(『升沢にくらす』 p.246)